

研究 成 果 報 告 書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB		CDM を活用した日中技術協力と地球温暖化対策の統合に関する経済分析			
研究テーマ (欧文) AZ		Economic analysis of Japan-China CDM as a countermeasure against global warming			
研究氏 代 表 名 者	カナ CC	姓)イナダ	名)ヨシヒサ	研究期間 B	2004 ~ 2006 年
	漢字 CB	稲田	義久	報告年度 YR	2006 年
	ローマ字 CZ	Inada	Yoshihisa	研究機関名	甲南大学
研究代表者 CD 所属機関・職名		甲南大学経済学部教授			
<p>概要 EA (600 字～800 字程度にまとめてください。)</p> <p>中国は、日本にとって CDM(クリーン開発メカニズム)のパートナーとして最も望ましい国のひとつである。なぜなら、中国にはエネルギー節約および環境改善への大きな潜在需要があり、同時に中国の化石エネルギー関連 CDM プロジェクトは日本への酸性雨の越境被害の減少といった副次的利益をもたらすことが期待できるからである。ただ、CDM の目的からは CDM プロジェクトがホスト国の持続可能な発展に貢献することが重要である。中国は広大な国であるので、中国のどの地域に CDM プロジェクトを実施すればその目的に適うのかという点が CDM 実施上の重要な論点の 1 つになる。本論の目的は、日中間で CDM プロジェクトを実施するとすれば、中国のどの地域がプロジェクトの立地として適当であるかに関して考察することである。</p> <p>周知のように CDM プロジェクトを実施する前提は、(1)温室効果ガスの追加的な削減があることに加えて、(2)当該プロジェクトの実施がホスト国の持続可能な発展に貢献するということである。後者の効果を高めるためには、どの地域に CDM プロジェクトを立地すれば最適かの判断基準が重要となる。本論は、中国の地域間産業連関表(2000 年ベース)を使用して、中国の持続可能な発展と CDM プロジェクトの立地の関係について考察した。分析にあたり、CDM プロジェクト実施による効果を CO₂ や SO₂ の排出量削減といった(1)環境効果に加えて、(2)所得増加や雇用の増加といった経済的效果、(3)地域間不均衡の緩和、技術のスピルオーバーといった社会的効果の 3 つの効果を分けて分析を行った。</p> <p>分析結果によれば、評価基準によって CDM の立地の優先順位が異なるものの、北部首都圏、南部沿海、および中央地域が CDM 立地の有力候補となり、中国政府が推進する「西部大開発」政策のターゲットとは必ずしも一致しない結果となった。</p>					
キーワード FA	CDM	Input-Output analysis	Spill-over effect	Site location	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA					研究課題番号 AA								
研究機関番号 AC					シート番号								

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）										
雑誌	論文標題 ^{GB}	資源節約技術の国際比較								
	著者名 ^{GA}	稲田義久他	雑誌名 ^{GC}	産業連関(環太平洋産業連関分析学会)						
	ページ ^{GF}	41～53	発行年 ^{GE}	2	0	0	6	巻号 ^{GD}	第 14 巻第 2 号	
雑誌	論文標題 ^{GB}	Japan' s Foreign Direct Investment and Employment								
	著者名 ^{GA}	下田, 藤川, 渡邊	雑誌名 ^{GC}							
	ページ ^{GF}	1～34	発行年 ^{GE}	2	0	0	6	巻号 ^{GD}	第 46 巻第 3 号	
雑誌	論文標題 ^{GB}	中国多部門計量モデルの開発								
	著者名 ^{GA}	稲田義久, 下田充	雑誌名 ^{GC}	甲南経済学論集						
	ページ ^{GF}	1～31	発行年 ^{GE}	2	0	0	6	巻号 ^{GD}	第 46 巻第 2 号	
図書	著者名 ^{HA}	藤川清史								
	書名 ^{HC}	産業連関分析入門								
	出版者 ^{HB}	日本評論社	発行年 ^{HD}	2	0	0	5	総ページ ^{HE}	220	
図書	著者名 ^{HA}									
	書名 ^{HC}									
	出版者 ^{HB}		発行年 ^{HD}					総ページ ^{HE}		

欧文概要^{EZ}

China is one of the most preferable partners of the CDM (Clean Development Mechanism) Scheme for Japan because environmental effects and ancillary benefit of energy saving are expected. The purpose of our analysis is to make a proposal on which region in China would be the most suitable as a site location of a CDM if China accepts CDM projects from Japan.

The CDM Scheme is a rule for a kind of international investment projects, the purpose of which is not only to reduce emissions of GHGs with the minimum cost but also to support sustainable development of developing countries. One of the most important issues for the host country like China would be how to determine site location for a CDM project. As to measures of socio-economic effects of an investment project, we apply the framework of I-O analysis.

This paper considers which region in China would be the most suitable as a site location of CDM projects from some different criteria with a Multi-Regional Input-Output Table China 2000 used as a statistical tool. The criteria we used include such socio-economic effects as output and employment increase, spillover effect of technology, and such environmental effects as emission reduction of CO₂ and SO₂. As a result of a simulation analysis by region, it turned out that the 'South coast', 'North municipalities', 'Central region', would be candidates for the most suitable regions as a CDM site in evaluating the above-mentioned criteria comprehensively.